

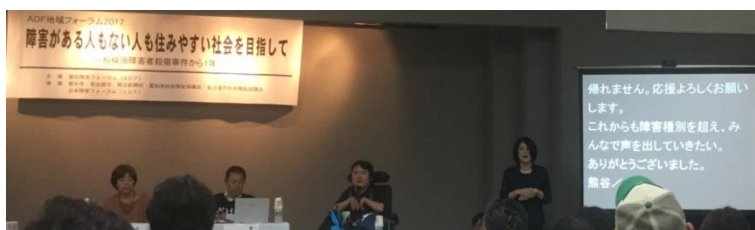
## 愛知障害フォーラム(ADF)地域フォーラム 2017

標題のフォーラムが7月22日午後、名古屋伏見の朝日ホールで行われた。テーマは「障害のある人もない人も住みやすい社会を目指して～相模原障害者殺傷事件から1年」。

第1部は、熊谷晋一郎・東京大学先端科学技術研究センター准教授による「津久井やまゆり事件を通して優生思想・障害者差別を考える」と題した基調講演。熊谷さんは東京大バリアフリー支援室長も務め、小児科医である。1977年に山口県で生まれ、新生児仮死の後遺症で、脳性マヒに。以後車いす生活となる。大学進学とともに地域での一人暮らしを始め、在学中は、全国障害学生支援センタースタッフとして、障害学生の高等教育支援に関わる。



熊谷さんは最新の研究成果、海外の事例をもとに鋭く問題を投げかけた。また「マクドナルドの固い椅子」などを例に、分かりやすく説明されたのが印象に残った。第2部シンポジウムとともに、刺激と多くの示唆が得られた。



やまゆり事件の本当の加

害者は誰なのか。日本の「社会」にこそ、最大の責任があるのではないか。社会という自分とは関係ないとされがちだが、加害者は「あなた」自身なのでは。本当の加害者を間違えてはならない。障害や貧困など「弱い者」いじめ、差別が横行する「排除的な社会」に警鐘を鳴らす。

被害者側からアプローチしても、加害者側からアプローチしても、地域コミュニティから排除され、社会的に孤立し、依存先（生きていくのに必要な、頼れる物的・人的資源）が一部のモノや人に集中しているとき、人は、暴力に巻き込まれやすくなる。「危ない仲間ほど、一人ぼっちにさせない」

家族や施設、介助者、支援者、地域社会のあり方を多面的に考察していく必要がある。税金の使い方、現代的な「優生思想」、分けない教育＝インクルーシブ教育の大切さなど、じつに多くのことを学んだ。



3枚目の写真は、休憩時間に林京香さんが熊谷さんに「手づくり名刺」を渡しているところ。熊谷さんが京香さんに優しく語りかける姿が印象的だった。

(2017年7月24日)